

小学校・第4学年・音楽科・全体を味わって聴こう①

育成を目指す資質・能力

さいたま市提供

「ノルウェー舞曲 第二番」（グリーグ作曲）の強弱や速度の変化に興味をもち、曲想と音楽の構造との関わりについて気付くとともに、曲のよさを見いだしながら曲全体を味わって聴き、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むことができる。

ICT活用のポイント

ICT端末の画面上で音楽の構造を可視化するとともに、音楽を個々の学習に合わせたタイミングで聴いて確かめたり、グループや全体での交流の場で共有したりできるようにする。

事例の概要

強弱や速度の変化
を聴き取る

曲想と音楽の構造との
関わりに気付く

互いの気付きなどを伝え合う

曲全体を味わって聴く

体を動かす活動を通して「どんな踊りか」を考え、強弱や速度の変化を聴き取る。

ICT端末を活用して曲想と音楽の構造との関わりについて気付く。

- ① 感じ取った曲想の変化について言葉や絵、図などで表現したり、感じ取ったことの原因について強弱や速度などをよりどころにして説明する。
- ② 互いの気付いたことや考えたことを、つなぎ合わせたり並べ替えたりして整理したものをグループや全体で伝え合う。

強弱や速度の変化をもとに、曲のよさや面白さを見いだし、曲全体を味わって聴く。

小学校・第4学年・音楽科・全体を味わって聴こう②

【事例におけるICT活用の場面 1】



- 「どんな踊りか」を考え、感じ取った曲想の変化についてICT端末上のカードに言葉や絵，図などで表現する。
- 次に、感じ取ったことについて強弱や速度などをよりどころにして考え、その理由をICT端末上のカードに入力する。

- ✓ ICT端末上にA—B—A'の形式に沿ってカードを並べておき、予め音楽の構造を可視化できるようにしておく。
- 言葉で表すだけでなく、絵や図に表す活動や、体を動かす活動など、子供がよりよい方法を選んで伝え合えるよう配慮することが大切。

【事例におけるICT活用の場面 2】



- ICT端末上のカードに表現した互いの気づきや考えたことについて、カードをつなぎ合わせたり、並べ替えたりして整理する。
- 気付いたことや考えたことについて整理したカードを見ながら、グループで説明し合ったり、クラス全体で伝え合う。

- ✓ 可視化された音楽の構造に沿って、感じ取ったことと聴き取ったこととの関わりを考えながら、より伝わりやすい説明の仕方について試行錯誤できるようにする。
- 伝え合う中で、適宜、音楽を聴いて確かめる場面を設け、互いの気付いたことについて確かめたり、友達の感じ方により共感できるようにすることが大切。

【活用したソフトや機能】 音楽再生機能，学習支援ソフト

小学校・第5学年・図画工作科・ながさきARTTRIPーわたしだけの地図ー①

B鑑賞(1)ア、[共通事項](1)ア、イ

育成を目指す資質・能力

長崎県提供

- (1) 自分の感覚や行為を通して、身近な長崎をテーマに描かれた絵における形や色などの造形的な特徴を理解する。
- (2) 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら我が国や諸外国の親しみのある美術作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。
- (3) 主体的に郷土長崎にゆかりのある作品を鑑賞する活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

ICT活用のポイント

- ・美術館の学芸員と対話しながら所蔵作品を鑑賞できるように、教室と美術館とをオンライン会議システムで接続
- ・作品の細部まで鑑賞できるようICT端末の拡大機能を活用

事例の概要

作品鑑賞 1
学芸員の解説
めあての設定

作品鑑賞 2
「作品マップ」づくり

開き合い、発表

まとめ、振り返り

長崎美術 往来！ー長崎県美術館コレクションからー

2020年10月3日～2021年1月3日

鎖国の時代から海外交流の拠点であった長崎は、明治時代を迎えた後も、西洋や中国の文化と日本文化が交じり合った独特の風情をもつ都市として、芸術に関わる人々を惹きつけてきた。結果、多くの芸術家が長崎を題材とした作品を生み出し、地元の作家も、それらに刺激を受けつつ長崎の外へと自らの表現を発信していった。長崎ゆかりの美術作品(長崎県美術館所蔵)から、作家の目に映った長崎の姿を、時空を旅しながら見つめることで、長崎の文化的風土を改めて捉え直すことのできる作品展。



【作品鑑賞 1】

美術館からA「長崎港の図(中山文孝)」とB「長崎の丘(鈴木信太郎)」の2作品をWeb会議システムで配信し、大型モニター及びICT端末で鑑賞。その際、児童は、学芸員と対話しながら作品のよさや美しさを感じ取ったり考えたりする。

〈めあて〉「長崎を表した絵から感じたことを伝え合おう」

【作品鑑賞 2】

・地図に作品写真を貼付した「作品マップ」を作成するため、AB以外の17作品を鑑賞しながら、「作品マップ」に取り入れる数点を各自で決める際にICT端末を使用。

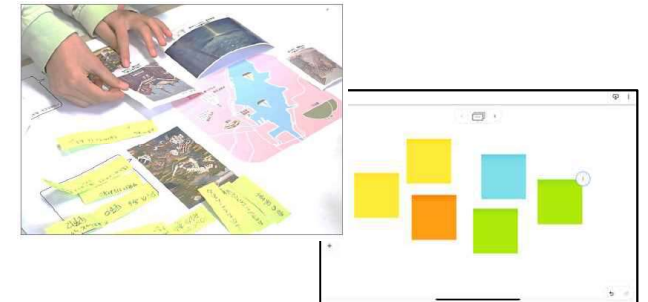
小学校・第5学年・図画工作科・ながさきARTTRIPーわたしだけの地図ー②

B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ

【事例におけるICT活用場面①】



【事例におけるICT活用場面②・③】



【場面①（美術館とリアルタイムでつながり、対話しながら作品を鑑賞する場面）】

- ・離島部にも多くの学校がある本県の現状から、美術館の作品を学芸員と対話しながら鑑賞できる機会を設けることは、美術作品への興味・関心を高め、作品のよさや美しさを感じ取ったり考えたりして見方や感じ方を深めることにつながる。
- ・児童が作品から受けた印象を造形的な視点をもって友人と話し合えるようにし、学芸員は対話しながら適切なタイミングで作品の情報を伝えていくようにしている。そのためには、教師と学芸員が、事前にねらいや学びを深める指導について共有しておくことが重要である。

【場面②（作品から自分なりに感じ取ったよさや美しさなどについて紹介している場面）】

- ・作品鑑賞したり友人に紹介したりする際に、自分が見たい、見せたいと思ったところを拡大してじっくり見合うことができる。そして作品の意図や特徴について話し合うなどして見方や感じ方を深める姿につなげることができる。

【場面③（「作品マップ」を作成する場面）】

- ・本授業では、マップ台紙に印刷した作品画像やコメントを貼付した。デジタルホワイトボードを効果的に活用し、ICT端末上で、マップ台紙画像に作品画像やコメントを貼付することもできる。このような活動を行うことで、画像サイズの調整や貼り替えも自在で、児童は自分の感じたことや考えたことを短時間で整理し、多くの友達と共有して意見を交換することが可能となる。

【活用したソフトや機能】 オンライン会議システム、デジタルホワイトボード

小学校・第5学年・家庭科・題材名「かしこい消費者を目指して」

内容「C消費生活・環境」(1)ア(ア)(イ) , イ C(2)ア, イ①

題材のねらい

物や金銭の使い方と買物について、課題をもって、物や金銭の大切さについて理解し、買物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の計画的な使い方、身近な物の選び方、買い方、情報の収集・整理に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な物の選び方、買い方を工夫することができる。

生活の課題
発見



解決方法の
検討と計画



課題解決に向け
た実践活動



実践活動の
評価・改善



家庭・地域
での実践

ICT活用のポイント

- 商品を購入する際に大切だと思う点を学習支援ソフトを用いて意見を交流したり、商品を選ぶ際の決め手となった部分の考えを共有したりして、各自の思考の過程を視覚化しやすくする。
- 商品から様々な情報を得られるように、見本となる商品を様々な角度から撮影した画像を紹介し、オンラインショッピングのように画像を拡大縮小しながら、吟味できるようにする。

事例の概要

- 導入において、「母親からお使いを頼まれた」という各グループごとに条件の違う動画を提示し、生活の中にある問題を見だし、課題を設定する。
- 買物の場面では、実物を手に取ったり、ICT端末を活用したりして、商品を値段や分量・賞味期限・産地・品質など、児童が様々な観点で選ぶことができるようにする。商品を選んだ決め手となる部分をICT端末を使って写真に撮り、着目した「選ぶポイント」についてその理由をICT端末に記入する。その後、グループで友達と選んだ品物の写真を共有することで、選んだ観点やその根拠などについて学び合い、グループとしての考えをまとめる。学級全体でも情報を共有することで、目的によって選ぶ観点が変わること気付くようにする。

小学校・第5学年・家庭科・題材名「かしこい消費者を目指して」 内容「C消費生活・環境」(1)ア(ア)(イ) , イ C(2)ア, イ②

【導入時における教材の同時送信による閲覧，必要な情報の収集・整理】



【ICTを活用するメリット】

- ・グループごとに条件が違う「母親からお使いミッション」の動画を作成し，各グループごとに配信することで自分事として捉えられるようにし，課題の課題へとつなげる。
- ・クラウド上に買物のための商品の情報を保存しておくことで，児童が情報収集できる。



【ICT端末を使って情報の確認・自己の考えの記録】



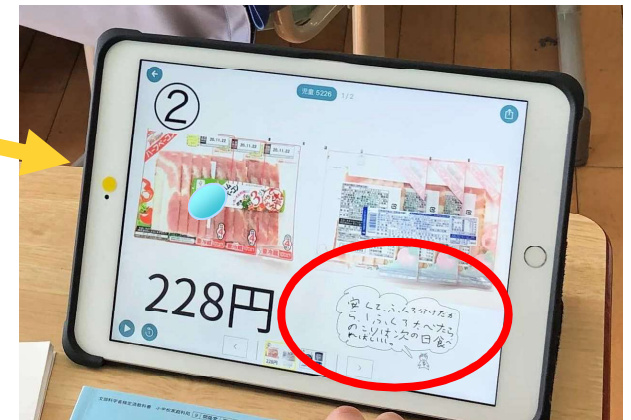
【ICTを活用するメリット】

- ・ICT端末での情報と実物を比較しながら，自分が着目した部分に印を付け，その理由をICT端末に記入・保存することで，グループでの交流や全体交流で生かすことができる。

【ICTを活用するメリット】

- ・保存した情報を各グループで共有することで友達の考えから学び，互いに認め合うことができる。
- ・グループのまとめの記述や画像を保存することで，全体で発表する際，画像を共有できるとともに，考えの根拠を明確にして発表することができる。また，全体で情報を共有することでより多くの友達の考えを知ることができる。

【各自の記録を基に，グループでの考察，まとめ】



【活用したソフトや機能】

写真・動画撮影機能，コメント機能，ファイル共有機能，学習支援ソフト

小学校・第6学年・総合的な学習の時間・平和学習①

育成を目指す資質・能力

沖縄県提供

実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。

ICT活用のポイント

学習支援ソフトを活用し、新聞やインターネットから集めた情報や文字でまとめた資料などを、相手にわかりやすく伝えるためはどうしたらよいか考えたり、シンキングツールを活用して、整理・分析するために、順番を入れ替えたりすることが容易にできる。

①課題の設定

沖縄戦のビデオ鑑賞

②情報の収集

調べ学習・情報のまとめ

場面①

③整理・分析

各自・グループで練り直し

④まとめ・表現

まとめた内容を発表

場面②

事例の概要

沖縄県では、沖縄戦等の戦没者を追悼し、平和を祈るため、毎年6月23日を「慰霊の日」として県独自の記念日（休日）に制定している。

県内の多くの学校では、この「慰霊の日」に向け、ビデオ学習や、平和祈念資料館見学、ガマ体験、戦争体験を聞く等の学習を行っている。

今回、紹介する事例は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、3密を避けるために、全校集会や体験活動を取りやめ、クラス単位で1人1台端末を活用して、調べ学習を行ったものである。

①課題の設定…沖縄戦のビデオ鑑賞を行い、平和学習に対する学びを深める。

②情報の収集…新聞社から配布してもらった「慰霊の日」の特別号やNHKのデジタルコンテンツを活用しながら、自分の調べたいことについて、各自で考え、情報を集める。

③整理・分析…教師が、よくまとめている児童の発表資料の原案を紹介し、その良さを伝え、どのようにしたら、相手に伝わるかについてポイントを示す。その後、児童は、グループで相談しながら、自分の発表資料の原案を練り直し、発表資料を作成する。

④まとめ・表現…プレゼンテーションソフトで作成した資料をプレゼンし、全員で共有する。

小学校・第6学年・総合的な学習の時間・平和学習②

【事例におけるICT活用の場面①】



図 1 : 新聞やインターネットから情報を集める

【事例におけるICT活用の場面②】



図 4 : プレゼンテーションソフトでまとめたものを発表する

【活用の場面① : 情報の収集】

図 1 : 新聞やインターネットから情報を集めている様子。

図 2 : 戦争経験者の動画も各自で視聴できる。

図 3 : 集めた資料を発表順につないだり、変更したりすることが簡単にできる。

【活用の場面② : まとめ・表現】

図 4 : まとめた資料を発表している様子。

図 5 : シンキングツールを活用して、自分の考えを相手にわかりやすく伝えることができる。

図 6 : 発表中に、資料に追加の情報を記したり、下線を引いて強調したりすることができる。

【児童生徒や教師にとってのICT活用のメリット】

- ・資料を整理・分析し、まとめることが容易にできる。
- ・図や写真などを使って、わかりやすく表現できる。



図 2 : 動画視聴



図 3 : 資料の順番



図 5 : シンキングツール



図 6 : 資料への追記

【活用したソフトや機能】

学習支援ソフト（シンキングツール）、ウェブブラウザ、プレゼンテーションソフト

中学校・第1学年・家庭分野・題材名「栄養のバランスのよい食事について考えよう」 内容「B衣食住の生活」(2)ア(ア)(イ), イ①

題材のねらい

中学生に必要な栄養を満たす食事について、課題をもって、栄養素や栄養的な特質、中学生の1日に必要な食品の種類と概量、1日分の献立作成に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、中学生の1日分の献立を工夫することができる。

生活の課題
発見



解決方法の
検討と計画



課題解決に向け
た実践活動



実践活動の
評価・改善



家庭・地域
での実践

ICT活用のポイント

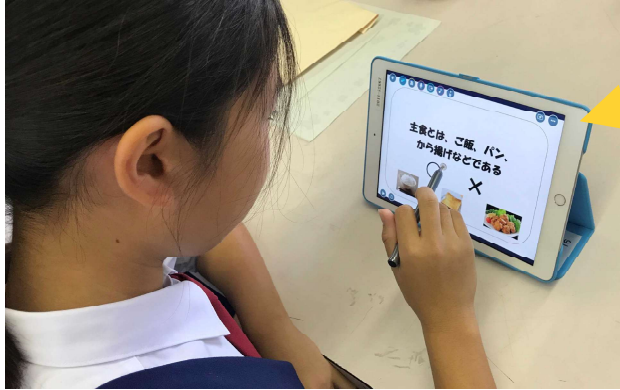
- 導入時において、献立作成に関連するクイズを作成して保存しておき、本時の学習課題（本時の目標）へつなげる。
- ICT端末を活用し、「栄養のバランスのよい食事」について、食品摂取量のめやすを用いて試行錯誤しながら、献立を考えることができるようにする。
- グループや全体での献立の交流の場面において、情報を共有することで、思考の過程を視覚化しやすくする。

事例の概要

- 導入では、前時の復習とともに、学習に対する意欲や見通しがもてるように、ICTを活用して献立作りに関連するクイズを出題し、「食品群別摂取量の目安を考えた献立をたてよう」という本時の学習課題（本時の目標）につなげる。
- 栄養のバランスのよい1日分の食事となるように、献立作成ソフトを使い献立を考え、その工夫を学び合う。

中学校・第1学年・家庭分野・題材名「栄養のバランスのよい食事について考えよう」内容「B衣食住の生活」(2)ア(ア)(イ), イ②

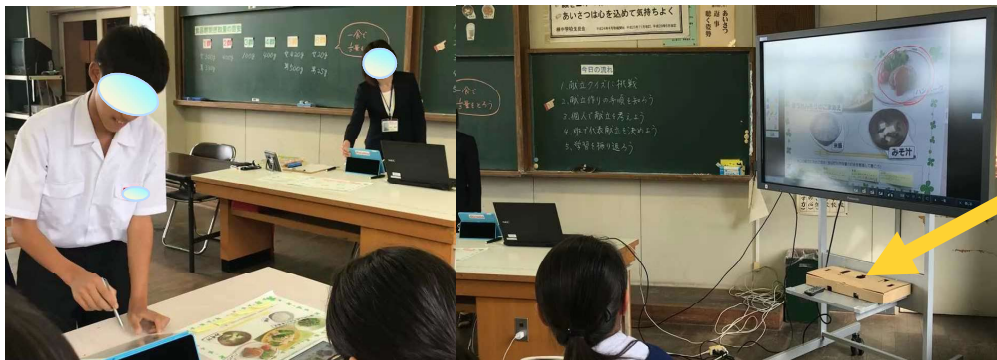
【導入時における教材の同時送信による閲覧】



【記録を基にしたグループでの交流】



【改善記録を基にした全体での交流】



【ICTを活用するメリット】

- ・献立作成に関連するクイズを作成し、クラウド上に保存しておき、同時に配信することで、課題設定につなげることができる。

【ICTを活用するメリット】

- ・料理カードの写真をクラウド上に保存しておくことで生徒が試行錯誤することができる。また、考えた根拠を記録し、そのデータを保存しておくことで、グループ交流の際に生かすことができる。

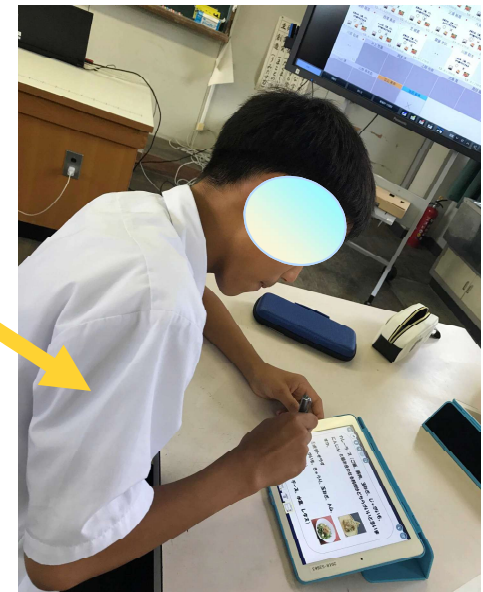
【ICTを活用するメリット】

- ・各自が考えた献立画像を保存し、それを共有することで、友達と比較しながら互いの考えの根拠や工夫を認め合うとともに、献立の改善に生かすことができる。

【ICTを活用するメリット】

- ・各グループでまとめ改善した献立をクラウド上に保存しクラス全体で共有することで、考えを深めることができる。
- ・大型提示装置を活用し、拡大や焦点化することにより、効果的なプレゼンテーションをすることができる。
- ・生徒一人一人の手元でもその様子を確認することができる。

【自分のペースでの試行錯誤、考えの根拠を記録】



【活用したソフトや機能】

写真撮影機能、ファイル共有機能

中学校・第2学年・外国語科「My Dream」①

育成を目指す資質・能力

大阪府提供

学級の仲間に、自分の将来の夢について、理由とともに分かりやすく伝えることができる。（話すこと〔発表〕イ）

ICT活用のポイント

- 単なる「練習」のための「ICT活用」ではなく、**言語活動につなげるための「ICT活用」**を指導者が意識する。
 - － 生徒に自分の課題に応じて練習できるツールとして活用させ、「**個別最適な学び**」の**充実**につなげる。
 - － 指導者が「学習者用デジタル教科書」を編集、アレンジして教材を作ること、生徒たちの「**個別最適な学び**」のさらなる**充実**につなげる。
- 生徒が、「どのような視点に着目しながら言語活動に取り組めばよいか」を意識しやすくして、「**協働的な学び**」の質を向上させる。
 - － 生徒の成果物を共有するだけでなく、指導者によるコメントや添削されている英文や情報も共有することを心がける。

事例の概要

【○生徒の学習過程】（▶は指導の留意点）

○指導者の学生時代に抱いていた「将来の夢」を聞く。

▶本単元の中心となるスピーチ（What's your dream?）のモデルとして生徒に聞かせるとともに、指導者のスピーチ内容に関連したやりとりを生徒たちとも行う。

○単元のゴールや、ゴールに向かう学習過程、スピーチの評価について見通しをもつ。

○言語活動（スピーチ録画 / 1回目）をペアで行う

○本文の内容を理解した後、単語の発音練習等を、各自で行う〔**個別最適な学び**〕

○本文のリテリングをペアで行う。

▶自分のスピーチをよりよいものにするために本文をリテリングしている、という意義を踏まえさせる。リテリングを行う目的（自分のスピーチをよりよいものにするため）を生徒に伝える。

▶「学習者用デジタル教科書」×「ICT端末」で編集したPicture Cardで、習熟度別でリテリングに取り組ませる。〔**個別最適な学び**〕

▶単にリテリングを行うのではなく、本文にあるスピーチがどのような展開になっているかに気付かせるとともに、どのような展開なら相手により分かりやすく伝わるかを意識させながら取り組ませる。

○言語活動（スピーチ録画 / 2回目）をペアで行う。

▶1回目のスピーチと比較して違いに気付かせ、内容が充実していたり、分かりやすい展開になっていたたりすることを実感させる。

言語活動

（スピーチ 1 回目）

練習

（単語、本文音読）

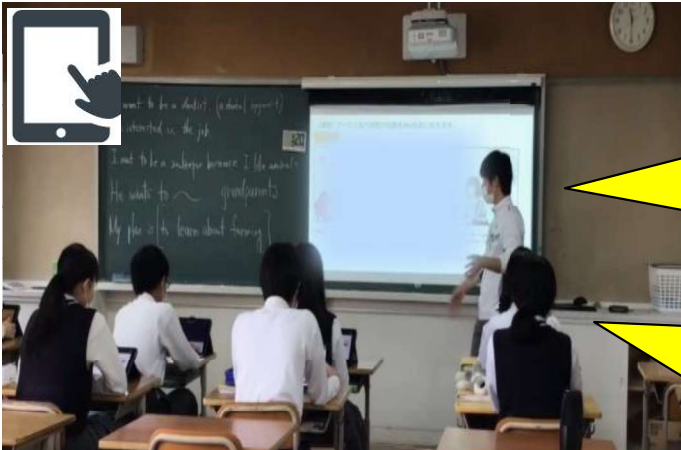
練習

（リテリング）

言語活動

（スピーチ 2 回目）

中学校・第2学年・外国語科「My Dream」②



単語、本文音読の練習をしている場面

生徒A：「この文、3つの単語がつながって1つの発音に聞こえるぞ」

生徒B：「ここでは、特に注意する単語は2つだけだ。この単語に集中して練習しよう」



自分に適したレベルのPicture Cardを選んでリテリングの練習をしている場面

生徒C：「まずは確認のためにレベル1を試してみようかな」

生徒D：「自分には、暗唱はあまり必要ない。今日は、難しいけど今まで習った英語を思い出しながら、少しずつアレンジしていこう。…みんなの英語も参考になるなあ」



作成したPicture Card (イメージ)

学習者用デジタル教科書の挿絵



ICT端末を用いてテキストをレベル別に編集



「個別最適な学び」のさらなる充実

※吹奏楽部のメンバーとしてアンサンブルコンテストに出るために練習している教科書の挿絵

() sister plays the ().
She () to play it () the () ensemble contest.
() () students can play ().

※例) Level 1

Level 1 : 本文の穴埋め形式

Level 2 : キーワードのみ数語提示

Level 3 : 挿絵のみ

「学習者用デジタル教科書」を編集したPicture Cardを活用した学習を通して、生徒の「個別最適な学び」を充実させる

- ◆ 「Level 1」(※左図参照)を選ぶ生徒の多くは、自分なりに英語で表現することにまだあまり自信がない。そのため、まずは本文を暗唱していこうとする。ただし同時に、自身の取組が、あくまでも「暗唱」であり、「リテリング」ではない、という意識ももっている。結果として、ある程度「できた」と感じたら、すぐに「Level 2」に進もうとする姿が見受けられる。
- ◆ 「Level 2」では少しずつ自分なりの表現を使い始める生徒が出てくる。「言語活動」の要素が出てくる段階である。生徒によってかなり表現の「幅」が出てくる。リプロダクションのような英語を残しながら、学級の仲間が使う英語を工夫して取り入れる姿も見受けられる。
- ◆ 「Level 3」では、かなり即興的に英語を使う生徒が出てくる。また自分なりに考えた英語を使って内容を膨らませる生徒もいる。その結果、流暢さが高くなる反面、どうしても正確さに影響が出てくる。その点を補おうと、英文を書いて正確性を考えるような姿も見受けられる。

【活用したソフトや機能】学習者用デジタル教科書、文書作成ソフト、プレゼンテーションソフト

中学校・第2学年・外国語科「My Dream」③

単元終了時における生徒の変容（「振り返りシート」より）

【単元の目標】

学級の仲間に、自分の将来の夢について、理由とともに分かりやすく伝えることができる。

「この単元の学習でできるようになったこと（できなかったこと）は何ですか」

「自分なりに何ができるようになったか」を
生徒自身が意識（メタ認知）する

- スピーチでは自分の夢を文の構成（導入→展開→結論）を考え、展開部分に理由を付け、教科書に書かれているスピーチを参考にしながら、自分の夢を具体的に説明することができた。ただ、少し日本語を使ってしまう部分があったので、もったいなかった。（生徒A）
- だいたい即興的に、自分の夢のことを話すことができました。量はあまり多くなかったのですが、もっと知っている言葉を増やしてより具体的にみんなに伝えたいな、と思います！ 分からない表現を調べることを少なくして、ある程度、みんなが分かるように伝えることもできました！（生徒B）

・生徒は、自己調整している姿を意識（メタ認知）する

・指導者は、「主体的に学習に取り組む態度」についての「記録に残す評価」に生かすことができる

「なぜできるようになったと思いますか？／できなかったことを克服するために、どのような学習をしますか。」

- このスピーチをする時の発表の構成や、どういう単語を使えば相手に分かりやすいか、という視点で教科書の本文を何回も読んだから、スピーチがうまくできたのだと思う。また、日本語の「あー」や「えー」に対応する“Well...”, “Let’s see...”などの英語を練習して、言えるようにしていきたい。（生徒A）
- この単元で新しく出てきた文法事項で、表現の幅が少し広がったような気がします。即興的にスピーチをするのは難しかったです。その後の質疑応答も、何を聞かれているかすぐに分からないことがありました。復習として、もう一度デジタル教科書を使って、本文を読み込んでいこうと思います。（生徒B）